

# IBTA e-News 国際脳腫瘍ネットワーク 月刊ニュースレター

[2023年9月号](#)

目次 (項目をクリックすると記事本文にジャンプします)

## 【トップニュース】

- ◆ 2023年国際脳腫瘍啓発週間が間近に迫る
- ◆ 英国が新たな特別協定の下、ホライゾン・ヨーロッパに参加
- ◆ 欧州神経腫瘍学会2023がロッテルダムで開催
- ◆ 英国神経腫瘍学会年次総会のアブストラクトが発行される
- ◆ 低悪性度神経膠腫患者の職場復帰に関する重要な調査

## 【治療関連ニュース】

- ◆ 腫瘍に埋め込む微小マイクロデバイスで神経膠腫の治療法を検証
- ◆ 脳腫瘍患者の不眠症を改善するために150万ドルを心理士が受領
- ◆ 米国食品医薬品局が脳腫瘍に対するテモゾロミドの処方情報を更新
- ◆ 脳腫瘍関連てんかんの管理：米国神経腫瘍学会による現行の管理に関するコンセンサスレビュー

## 【研究ニュース】

- ◆ 新規ワクチンと正中神経膠腫
- ◆ 脳腫瘍遺伝子治療のファースト・イン・ヒューマン試験
- ◆ 脳腫瘍患者に対する免疫療法の効果改善に役立つ可能性のある新たな研究報告
- ◆ 研究者らが脳脊髄液を用いて脳腫瘍を同定する検査を考案
- ◆ 膠芽腫の増殖と化学療法抵抗性を標的とするデザイナー分子が開発されたとの研究報告
- ◆ 膠芽腫の効率的なアダプティブ多群第2相臨床試験
- ◆ BRAF V600遺伝子変異を有する小児神経膠腫におけるダブラフェニブとトラメチニブの併用

## 【コミュニティのニュース】

- ◆ 治療後の神経膠腫モニタリングのアンメットニーズに関するGLiMRウェビナー
- ◆ 欧州がん共同体財団が新しいライジングスター助成金を発表

## 【企業ニュース】

- ◆ 初発膠芽腫を対象とした第1相臨床試験に最初の患者が登録される：Orbus Therapeutics社発表
- ◆ 再発または進行性小児低悪性度神経膠腫に対するトボラフェニブの米国食品医薬品局承認を求める：Day One Biopharmaceuticals社発表

## 【企業ニュース】

- ◆ 古代ローマ時代の成人男性に髄膜腫の可能性－Virtual Archaeology Review誌に掲載された論文より

## 【イベント／学会ニュース(抜粋)】

## 【トップニュース】

### 2023年国際脳腫瘍啓発週間が間近に迫る

2023年国際脳腫瘍啓発週間 [10月28日 (土) ~11月4日 (土)] が間近に迫っています。この特別週間は、国際的な脳腫瘍コミュニティが団結し、脳腫瘍にかかわる課題、ならびに研究および支援活動の強化の必要性を注意喚起するために、世界各地で啓発活動を行う祭典です。

ぜひご参加ください。脳腫瘍の診断がもたらす特有の課題、特別な対応や研究への取り組みのさらなる必要性を認識してもらうために、どんな小さな活動でも、国際的な脳腫瘍コミュニティはあなたにお願いしたいと思っています。例えば、グループでのウォーキング、ジョギング、サイクリングなどを企画する、地元のメディアに連絡して自分の体験談を伝える、ソーシャルメディアに啓発メッセージを投稿する、友人や家族と直接またはビデオ会議でお茶会やクイズを行う、地元のコミュニティセンターや病院で啓発用の展示を企画する、脳腫瘍に関する教育ウェビナーを企画する、オンラインで啓発資料を公開するなどです。

もし、何らかの活動に参加できるのであれば、ぜひお知らせ下さい。[オンラインフォーム](#)に啓発週間の活動を登録していただき、活動報告もお願いします。

国際脳腫瘍啓発週間ツールキットとFAQは、[こちら](#)のウェブサイトから入手できます。イベント、活動、記事に関するニュース共有用のソーシャルメディアのハッシュタグは、**#IBTAWeek**です。

国際脳腫瘍啓発週間中に支援したり連絡を取ったりすることができる脳腫瘍の慈善団体や組織をお探しの場合は、[こちら](#)のインタラクティブなIBTAアライアンスマップで、あなたの国の団体のリストをご覧いただけます。

[目次に戻る](#)

### 英国が新たな特別協定の下、ホライゾン・ヨーロッパに参加

英国とEUは、世界最大の研究協力プログラムであるホライゾン・ヨーロッパに英国が参加することで**政治的合意**に達したと発表した。英国の研究者は、助成金を申請し、保健を含む幅広い課題に対応する資金提供プログラムに参加するための入札を行うことができるようになる。ホライゾン・プログラムに参加することで、EU諸国だけでなく、同プログラムに参加しているノルウェー、ニュージーランドおよびイスラエルとの協力関係も広がる。英国の科学・イノベーション・技術省の大臣であるMichelle Donelan氏は、「ホライゾン・プログラムの適用範囲は他の追随を許さないもので、英国に現実的な利益をもたらす科学分野で多くの協力の機会が得られます。つまり、雇用の創出や経済の活性化につながり、気候変動への取り組みであれ、がん研究の進展であれ、その分野で最も親密なパートナーとの協力関係が広がります。」と述べた。続きを読むには[こちら](#)と[こちら](#)。

[目次に戻る](#)

### 欧州神経腫瘍学会2023がロッテルダムで開催

第18回欧州神経腫瘍学会 (EANO) が、2023年9月21日から24日までオランダのロッテルダムで開催された。欧州神経腫瘍学会は、中枢神経系腫瘍の予防、診断および治療にかかわるすべての医学及び科学分野を代表する、ヨーロッパにおける学際的な神経腫瘍学の組織である。2023年のロッテルダム会議の主な臨床テーマは、試験的治療や併用療法、放射線腫瘍学の技術に関する最新情報、神経外科用精密ツール、先進の画像診断法、分子診断法の最新の開発状況などである。IBTAのKathy Oliver会長は、この学会で2つの発表を行う荣誉に浴した。1つは、脳腫瘍の臨床試験への参加と登録を阻む障壁についての患者の視点に関するもの、もう1つは、EURACAN [希少成人固形腫瘍 (脳腫瘍と中枢神経系腫瘍を含む) 欧州リファレンスネットワーク] における患者の参加に関するものである。今年の欧州神経腫瘍学会には50カ国から1000人以上が参加し、500以上のアブストラクトが提出された。アブストラクトは[こちら](#)のNeuro-Oncology誌に掲載され、無料で公開されている。2024年の欧州神経腫瘍学会は、英国のグラスゴーで開催予定である。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

### 英国神経腫瘍学会年次総会のアブストラクトが発行される

英国神経腫瘍学会 (BNOS) の2023年年次総会が、7月5日から7日まで英国マンチェスターで開催された。会議

のテーマは「神経腫瘍学におけるビッグデータ、バイオインフォマティクスおよびゲノミクス」であった。会議では、低悪性度神経膠腫の管理、希少腫瘍およびTYA（10代および若年成人）の腫瘍、臨床試験の最新情報、全ゲノムシーケンシング、神経心理学、再発膠芽腫の課題と選択肢、転移性脳腫瘍の管理における学際的取り組みなど、注目のトピックが取り上げられた。英国神経腫瘍学会2023会議のアブストラクトはNeuro-Oncology誌に掲載されている。[続きを読む](#)（オープンアクセス）。

[目次に戻る](#)

## 低悪性度神経膠腫患者の職場復帰に関する重要な調査

英国ケンブリッジ大学の研究者らは、低悪性度神経膠腫と診断された患者が復職時に直面する障壁を理解するための調査を実施している。研究者らは、低悪性度神経膠腫の患者に博士号プロジェクトの一環であるアンケートへの回答をお願いしたいと考えている。このプロジェクトは、ケンブリッジ大学臨床神経科学科のStephen Price教授が監督し、慈善団体[Astro Brain Tumour Fund](#)から資金提供を受けている。

アンケートの目的は、低悪性度神経膠腫を抱えながら診断／治療後に仕事に復帰した人々の経験を理解することである。患者は、このアンケートに回答することで、職場復帰の障害に関するより良い理解および将来の患者支援のための職業リハビリテーションの開発に貢献することになる。アンケートの所要時間は約10分で、回答はすべて無記名である。アンケートは[こちらのリンク](#)から参加可能。

[目次に戻る](#)

## 【治療関連ニュース】

### 腫瘍に埋め込む微小マイクロデバイスで神経膠腫の治療法を検証

米粒ほどの大きさの小さなデバイスは、患者の脳腫瘍で最大20種類の薬剤の効果を、神経外科手術中に有害事象を引き起こすことなくリアルタイムで検証できるとする[パイロット臨床試験](#)の詳細が、[Science Translational Medicine](#)誌に発表された。研究チームは、「……薬剤放出型腫瘍内マイクロデバイス（IMD）は、患者特異的でハイスループットな分子的小および病理組織学的薬剤反応プロファイルを得るために、安全かつ効果的に使用できるというファースト・イン・ヒューマンのエビデンスを示した」と記している。腫瘍の場(in situ)で観察された薬剤の抗腫瘍効果に基づいて、これらのデータは薬剤選択のための他の戦略を補うことができる。腫瘍切除の際に外科手術に腫瘍内マイクロデバイスを組み入れ、標準的な手術時間（2～3時間）のみin situに留置する。登録された6人のうち、腫瘍内マイクロデバイスに関連した有害事象を経験した患者はおらず、採取した12検体のうち11検体について、曝露された組織は下流の分析に使用可能であった。詳細は[こちら](#)と[こちら](#)。

[目次に戻る](#)

### 脳腫瘍患者の不眠症を改善するために150万ドルを心理士が受領

米国バージニア・コモンウェルス大学（VCU）マッセイがんセンターの臨床心理士チームは、脳腫瘍と診断された軍人、退役軍人、その受益者および一般市民の不眠症治療に役立てるため、米国国防総省（DOD）から4年間で150万ドルの助成金を受け取った。この新たな資金は、ランダム化比較試験を介したバーチャル遠隔医療治療介入プログラムの実施に使用され、有益性が示されればより大規模な有効性試験につながり、全国の脳腫瘍患者の一助となり得る。この研究では、CBT-I（不眠症に対する認知行動療法）の直接的利益を調査する。このプログラムへの患者の募集は、リッチモンドVA医療センターとの提携や神経腫瘍学ソーシャルメディアでの全国的な立ち上げを通じ、マッセイを通じて行われる。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

### 米国食品医薬品局が脳腫瘍に対するテモゾロミドの処方情報を更新

プレスリリースによると、米国食品医薬品局（FDA）は、Project Renewalプログラムの下でテモゾロミドの[添付文書更新](#)を承認した。Project Renewalプログラムとは、情報が臨床的に意義があり、科学的に最新であることを保証するために、古い抗がん剤の添付文書情報を更新することを目的としたOncology Center of Excellence



(OCE) の取り組みである。本薬は、このパイロットプログラムの下で添付文書の更新を受ける2番目の薬剤である。テモゾロミドは、成人の初発膠芽腫患者を対象に、放射線療法との併用およびその後の維持療法として既に承認されている。テモゾロミドは現在、以下の新規および改訂された適応症で承認されている：（1）初発退形成性星細胞腫の成人の術後補助療法、（2）難治性退形成性星細胞腫の成人の治療。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 脳腫瘍関連てんかんの管理：米国神経腫瘍学会による現行の管理に関するコンセンサスレビュー

腫瘍関連てんかん（TRE）の診断と治療に不可欠な側面に関するコンセンサスレビューがNeuro-Oncology誌に掲載された。この総説は、脳腫瘍患者の生活の質（QOL）を向上させるためには、診断と治療を十分に理解する必要があることを強調している。著者らは、「腫瘍自体の影響を考慮して、発作の制御と忍容性を最適化するには、抗けいれん薬（ASM）の第一選択が重要である」と述べている。有害作用の評価も「抗けいれん薬の調整と意思決定の指針とするために」必要である。腫瘍関連てんかんの疫学と発生率についても論じられ、腫瘍の悪性度の低さと腫瘍関連てんかんの発生率の高さには関連があると強調している。アストロサイト（星細胞）系の神経膠腫は「オリゴデンドロサイト（乏突起膠細胞）系の腫瘍よりもてんかんを誘発せず」、IDH変異を有するアストロサイト系の神経膠腫（グレード4の腫瘍を含む）は「腫瘍関連てんかんを誘発しやすい」。 [続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 【研究ニュース】

### 新規ワクチンと正中神経膠腫

進行した正中神経膠腫と診断された成人患者にH3K27M特異的長鎖ペプチドワクチン（H3K27M-vac）を投与したところ、有望な免疫応答が示されたことが、[Nature Medicine](#)誌でドイツのハイデルベルクとマンハイムの研究チームにより報告された。このワクチンは、正中神経膠腫のマーカーであるH3K27Mと呼ばれるヒストン蛋白質の突然変異変化を模倣したものである。共同上席著者のMichael Platten医師は、「われわれは以前、この遺伝子変化が免疫系、特にヘルパーT細胞に認識されること、ワクチンによって特異的なヘルパーT細胞が活性化され、その後マウスでこの遺伝子変化を有する腫瘍が制御されることを示しました」と述べた。悪性度が高いびまん性正中神経膠腫は治療が難しいことで有名であり、通常小児や若年成人で診断される。また、通常、脳幹付近に位置するため、手術によるアクセスは非常に困難である。研究者らは、この研究でワクチン接種を受けた患者に重篤な副作用は見られなかったと報告している。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

### 脳腫瘍遺伝子治療のファースト・イン・ヒューマン試験

殺細胞薬と免疫刺激薬を併用したファースト・イン・ヒューマン、第1相臨床試験の初期結果が[The Lancet Oncology](#)誌に掲載された。この試験は、安全で有効な投与量を決定するためにデザインされ、18人の患者が参加した。この試験では、高悪性度神経膠腫を対象として2種類の遺伝子治療に焦点を当てた。最初の治療法は、HSV-1-TK（蛋白質）と口唇ヘルペスや水痘などのウイルス感染症の治療薬であるバルトレックスを組み合わせたものである。HSV-1-TKはバルトレックスを細胞毒性化合物に変え、活発に分裂しているがん細胞を殺す。第二の治療法はFlt3Lを用いたものであり、Flt3Lは重要な免疫細胞を脳に誘導するタンパク質である。臨床試験医師らは「治療に対する忍容性は良好で、用量制限毒性は認められなかった」と述べた。研究者らは、この併用療法は「第1b/2相臨床試験でさらに検討する価値がある」と述べている。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

### 脳腫瘍患者に対する免疫療法の効果改善に役立つ可能性のある新たな研究報告

膠芽腫（脳に発生する原発性腫瘍）が免疫療法に反応しないのに、体の他の部位から脳に転移した腫瘍（転移性腫瘍）が免疫療法に反応する理由が研究で明らかになり、[Journal of Clinical Investigation](#)誌に発表された。免

疫療法は、例えば、脳への転移が多いメラノーマなど他の種類のがんの成長を遅らせる、または根絶することが示されているが、これまでのところ膠芽腫では有意な臨床的有益性を示すことができていない。研究者らは、脳に転移した腫瘍を持つ人で、免疫チェックポイント阻害薬（免疫療法の一つ）による治療が、活性化T細胞と疲弊T細胞の両方を著しく増加させるとみられる（T細胞ががんと闘うために誘発された証拠）ことを見出した。さらに、同じことが膠芽腫の人に起こらない理由は、抗腫瘍免疫応答は脳外の流入領域リンパ節で最もよく始まり、かつそのプロセスが膠芽腫の症例ではあまり効果的に起こらないからである。続きを読むには[こちら](#)と[こちら](#)から。

[目次に戻る](#)

## 研究者らが脳脊髄液を用いて脳腫瘍を同定する検査を考案

通常、脳腫瘍はMRI画像と脳腫瘍から外科的に摘出された組織を用いて評価する。しかし、研究チームは、Real-CSF（CSFにおける反復性要素異数性シーケンス）と呼ばれる解析技術により脳脊髄液（CSF）中のDNAを評価することで中枢神経系のがんを検出できると報告している。この分子検査は、腫瘍から排出され髄液中を循環する異常な遺伝物質を測定することにより、脳腫瘍の存在を同定する。この研究チームの成果は[Cell Reports Medicine](#)誌に掲載された。付随するバイオインフォマティクスアルゴリズムと機械学習プロセスにより、研究者らはわずか2 mLの脳脊髄液から、がんがあるかどうか、またどのような分子特性を示すかを明らかにすることができる。続きを読むには[こちら](#)。

[目次に戻る](#)

## 膠芽腫の増殖と化学療法抵抗性を標的とするデザイナー分子が開発されたとの研究報告

膠芽腫の浸潤性と化学療法抵抗性に重要な役割を果たすEAG2とKvβ2の間に、これまで知られていなかったタンパク質間相互作用を発見したと、カナダのトロントにある小児病院 [Hospital for Sick Children (SickKids)] の研究者らが[Nature Cancer](#)誌で報告している。研究者らは、この相互作用を標的とするデザイナーペプチドを開発し、腫瘍の増殖を遅らせ、周囲の細胞へのがんの広がりを阻止することに成功した。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 膠芽腫の効率的なアダプティブ多群第2相臨床試験

ダナファーマーがん研究所が主導し、米国の主な脳腫瘍センター10施設と共同で実施した革新的な臨床試験の初期の結果が、[Journal of Clinical Oncology](#)誌に掲載された。「革新的膠芽腫治療の個別化スクリーニング試験（Individualized Screening Trial of Innovative Glioblastoma Therapy）」（INSIGHt）は、「第3相試験に向けた新規治療法を効率的に同定するための反応適応的ランダム化\*とゲノムプロファイリング」を用いた第2相プラットフォーム試験である。INSIGHt試験では、同時に様々な治療薬と比較検討する共有の対照群を使用する。この試験の最初の3つの試験群で、アベマシクリブ（CDK4/6阻害薬）、ネラチニブ（EGFR/HER2阻害薬）およびCC-115（DNA-PK/mTOR阻害薬）を検討した。これまでに検討した最初の3つの治療薬は、いずれも膠芽腫患者の全生存期間を有意に延長しなかったが、このアダプティブ臨床試験\*\*は、患者にとって有益となり得る治療法を迅速かつ効率的に同定できる可能性がある。放射線腫瘍医で本試験の共同筆頭著者であるRifaquat Rahman医師は、「この試験はより合理化されているが、同時に厳密でもあるため、その薬剤がさらなる投資に値するかどうかについて、信頼性のある答えが得られる可能性が高い」と述べた。[INSIGHt試験](#)は進行中であり、他の治療法を検討している。[続きを読む](#)。

\* 訳注：観測された反応結果に基づき動的に被験者を治療群に割り付ける方法

\*\* 訳注：臨床試験の途中で、蓄積されているデータに基づいて登録する患者の数などを変更することを予め決めている試験（通常、臨床試験は予め決めているルールを変更しない）

[目次に戻る](#)

## BRAF V600遺伝子変異を有する小児神経膠腫におけるダブラフェニブとトラメチニブの併用

ダブラフェニブとトラメチニブの併用療法は、BRAF V600遺伝子変異を有する低悪性度神経膠腫の小児患者に対して、標準化学療法よりも有意に反応性が高く、無増悪生存期間が長いという[第2相試験](#)の結果が、[New England Journal of Medicine](#)誌に発表された。110人の患者が、ダブラフェニブとトラメチニブの併用療法を受ける群または標準化学療法（カルボプラチンとビンクリスチンの併用療法）を受ける群に無作為に割り付けられた（それぞれ73人と37人）。主要評価項目として、Response Assessment in Neuro-Oncology (RANO) 基準に従って独立した評価による全奏効率（完全奏効または部分奏効）を評価した。本試験の研究者らはまた、ダブラフェニブとトラメチニブの併用は「一次治療として標準化学療法よりも安全性プロファイルが優れている」と結論づけた。[続きを読む](#)。

[目次に戻る](#)

## 【コミュニティのニュース】

### 治療後の神経膠腫モニタリングのアンメットニーズに関するGLiMRウェビナー

GLiMRプロジェクトは、神経膠腫研究の専門家、患者組織、データサイエンティストおよびMRイメージング研究者の全ヨーロッパにわたる学際的なネットワークを構築することを目的としている。プロジェクトにより欧州内の神経膠腫イメージングコミュニティを結束させ、臨床現場における診断、患者モニタリングの意思決定や臨床試験での治療効果の評価および診療を改善するための先進的なMRイメージングの開発と応用を進展させる。プロジェクトは、「GliMRの技術的側面と臨床的側面の橋渡し（Bridging GliMR's technical and clinical aspects）」シリーズの第2回ウェビナーを2023年10月13日（金）に開催する。このプログラムでは、治療後の神経膠腫モニタリングのアンメットニーズに焦点を当て、「高悪性度神経膠腫の治療後追跡調査の課題」と「高悪性度神経膠腫の再発疑いの先進イメージングー我々はどこまで到達しているのか」が発表される。[登録はこちら](#)から。

[目次に戻る](#)

### 欧州がん共同体財団が新しいライジングスター助成金を発表

欧州がん共同体財団（European Cancer Community Foundation）は、がんに関連するあらゆる分野における質の高い研究を支援し、次世代の学者、研究者および看護師を育成することを目的としたライジングスター助成金（Rising Star Grant）の申請者を募集する。ライジングスター助成金は、特に欧州がん機構（ECO）の[注目課題のネットワーク（Focused Topic Network）](#)内の研究で、独立したがん研究プログラムを設定する優秀な若手のがん専門家を対象とする。研究は患者志向でなければならず、ヒトが対象か、ヒトに適用可能な基礎研究、橋渡し研究、臨床研究、公衆衛生研究または実装研究が含まれる場合がある。ライジングスター助成金に採択された申請者は、将来の特定の研究プロジェクトの支援として、それぞれ3,000ユーロを受け取る。助成金は2023年11月に開催される年次[欧州がんサミット](#)で授与される。応募はすべてオンラインで行い、締め切りは2023年10月22日である。応募資格は、[WHO欧州地域](#)のいずれかの国で働く有資格の看護師、薬剤師、医師または研究者であること。詳細およびオンライン助成金の申請は[こちら](#)から。

[目次に戻る](#)

## 【企業ニュース】

### 初発膠芽腫を対象とした第1相臨床試験に最初の患者が登録される：Orbus Therapeutics社発表

Orbus Therapeutics社は、初発膠芽腫（GBM）患者を対象にテモゾロミドとエフロルニチンを併用する第1b相、非盲検単群試験に最初の患者が登録されたと発表した。この試験では、手術と放射線治療を終了した初発膠芽腫患者を対象に、テモゾロミドと併用したエフロルニチンの安全性と薬物動態を評価する。また、Orbus Therapeutics社は現在、STELLAR試験と呼ばれる第3相臨床試験を実施しており、放射線療法とテモゾロミドによる補助化学療法後に再発した退形成性星細胞腫患者を対象にエフロルニチン内用液を評価している。[続きを読む](#)（企業プレスリリース）。

[目次に戻る](#)



## 再発または進行性小児低悪性度神経膠腫に対するトボラフェニブの米国食品医薬品局承認を求める：Day One Biopharmaceuticals社発表

Day One Biopharmaceuticals社は、再発または進行性小児低悪性度神経膠腫を対象とした単剤療法としてのトボラフェニブの段階的新薬承認申請（rolling NDA）を米国食品医薬品局（FDA）に提出し、このほど完了したと発表した。同社は、FDAが2023年11月中旬までに段階的なNDAを正式に受理すると見込んでいる。小児低悪性度神経膠腫は、小児で診断される最も多い脳腫瘍であり、患者は長期にわたって人生に影響を及ぼし得る深刻な腫瘍と治療に伴う病的状態に苦しんでいる。同社は、FIREFLY-1試験（非盲検、ピボタル第2相試験）のデータに基づいて、2023年5月にNDAの段階的申請を開始した。FIREFLY-1試験では、2つの試験群で合計137人の患者を治療した。[続きを読む](#)（企業プレスリリース）。

[目次に戻る](#)

### 【最後に】

## 古代ローマ時代の成人男性に髄膜腫の可能性－Virtual Archaeology Review誌に掲載された論文より

スペイン北部の古代ローマ時代の成人男性の頭蓋から発見された4つの病変を分析した論文がVirtual Archaeology Review誌に掲載された。さまざまな科学技術〔形態学的分析、法医学的タフオノミー分析（生物がどのように腐敗して化石化または保存されるかの研究）、マイクロCT、3D顕微鏡など〕を駆使した結果、病変の1つは髄膜腫（脳腫瘍）の可能性が高いことが明らかになったという。このプロジェクトに携わった研究者らは、「腫瘍の位置に加えて、その他の側面と合わせたその形態から、髄膜腫が最も可能性の高い腫瘍の種類であることが裏付けられる……」と述べている。さらに著者らは、今回の発見は「過去の集団の古生物学的記録に対する新しい比較データ」を提供すると述べる。研究チームのDaniel Rodriguez-Iglesias氏（スペイン国立人類進化研究センター（CENIEH））は、「この知見の興味深い点は、過去の集団の健康状態を知る機会であること、そしてこのような状態を生き延びるための個人の能力とその後の生活の質（QOL）について、われわれに根本的な疑問を投げかけていることである」と付け加えた。続きを読むには[こちら](#)から。

[目次に戻る](#)

### 【イベント／学会ニュース(抜粋)】

※患者向けイベントは省略 学会ニュースのみ抜粋

COVID-19の大流行後、私たちは徐々に対面式のイベントに戻りつつあります。しかし、登録や旅行計画を立てる前に、予定されているイベントの状況や対面式、ハイブリッド式、バーチャル式のいずれであるかについて、カンファレンス主催者に確認するようにしてください。

[目次に戻る](#)

#### 2023年10月

[第15回CONGO科学会議](#) 2023年10月8日-10日 オーストラリア シドニー

[21世紀の脳転移管理](#) 2023年10月20日 英国 ロンドン

[第26回脳神経外科世界会議 \(WCN2023\)](#) 2023年10月15日-19日 カナダ モントリオール

[欧州臨床腫瘍学会 \(ESMO\) 大会2023](#) 2023年10月20日-24日 スペイン マドリッド

[第18回アジア脳腫瘍学会年会\(ASNO2023\)](#) 2023年10月27日-29日 インドネシア バリ

#### 2023年11月

[欧州がんサミット2023](#) 2023年11月15日-16日 ベルギー ブリュッセル

[第28回神経腫瘍学会大会、教育イベント \(SNO2023\)](#) 2023年11月15日-19日 カナダ バンクーバー  
[神経腫瘍学における橋渡し研究に関するElse Kröner臨床研究医シンポジウム](#)



## 2023年12月

[小児脳腫瘍ワークショップ-南アフリカ小児がん研究部ループ\(SACCAG\)/サブサハラ・アフリカ神経腫瘍学会 \(SNOSSA\) 共催](#) 2023年12月1日-2日 南アフリカ ケープタウン

[第4回パキスタン小児神経腫瘍シンポジウム-低中所得国における小児脳腫瘍管理のギャップを埋める](#)

2023年12月1日-3日 パキスタン カラチ

## 2024年4月

[NMNシンポジウム：精密医療-精密医療の時代における診断と治療のイノベーション](#)

2024年4月26日-27日 オーストリア ウィーン

脳腫瘍患者やその擁護団体によるイベントまたは学術会議（バーチャルか対面かは問わず）を企画している方、ご存知の方、または上記イベントの変更にお気づきの方は、[kathy@theibta.org](mailto:kathy@theibta.org)まで。[イベントページ](#)に掲載可能。

IBTAウェブサイトの[会議ページ](#)で、今後の学術会議やイベントの最新情報を確認のこと。

## IBTA（国際脳腫瘍ネットワーク）について

### 私たちについて

国際脳腫瘍ネットワーク（The International Brain Tumour Alliance：IBTA）は2005年に設立されました。各国の脳腫瘍患者や介護者を代表する支援、提唱、情報グループのネットワークであり、脳腫瘍の分野で活躍する研究者、科学者、臨床医、医療関係者も参加しています。詳細は [www.theibta.org](http://www.theibta.org) をご覧ください。

ご意見をお聞かせください

IBTAコミュニティで共有したいニュースがあれば、ぜひお聞かせください。宛先：[chair@theibta.org](mailto:chair@theibta.org)

月刊ニュースレターやホームページを通じて、ご購読者の皆様にできるだけ多くの情報を中継していく予定です。

メールニュース記事の選択は、編集者の裁量で行われます。

Copyright © 2020 The International Brain Tumour Alliance, All rights reserved. 無断複写・転載を禁じる。

（免責事項）国際脳腫瘍ネットワーク（IBTA）は、e-News（あるいはIBTA向け、またはIBTAに代わって作成されるニュース内でリンクを提供しているすべての資料、報告書、文書、データ等）に掲載される情報が正確であるよう尽力しています。しかし、IBTAはe-News内の情報の不正確さや不備について一切の責任を負いません。また、その情報やリンク先のWebサイト情報など、第三者の情報の不正確さに起因する損失や損害についても一切の責任を負いません。このe-Newsに掲載される情報は教育のみを目的としたものであり、医療の代替となるものではなく、IBTAウェブサイト上の情報は、医療上のアドバイスや専門的サービスを提供することを意図したものではありません。医療や診察については、主治医にご相談ください。臨床試験のニュースを掲載することは、IBTAの特定の推奨を意味するものではありません。IBTA e-Newsからリンクされている他のウェブサイトは、IBTAは管理していません。したがって、その内容については一切責任を負いません。IBTAは読者の便宜のためにニュース内でリンクを提供しているものであり、リンク先のウェブサイトの情報、品質、安全性、妥当性を検証することはできません。IBTAのプロジェクトに企業が協賛することは、IBTAが特定の治療法、治療レジメン、行動の推奨を意味するものではありません。（スポンサーの詳細については、スポンサーシップ・ポリシーをご覧ください）。e-Newsに掲載されている資料の見解や意見は、必ずしも国際脳腫瘍ネットワークのものではない場合があります。

翻訳： 坂下 美保子、伊藤 彰/JAMT（ジャムティ）翻訳チーム

監修： 夏目 敦至/名古屋大学未来社会創造機構・特任教授

河村病院・脳神経外科・部長